

新型コロナウイルス下での原子力防災訓練、課題いくつも

10月24日、新潟県の原子力防災訓練があり、スクリーニング・簡易除染、安定ヨウ素剤配布などの訓練が行われた直江津港南埠頭緑地公園へ行ってきました。

会場に入ったらまず受付で検温がされ、その後、氏名及び住所、電話番号を書いてから訓練の模様を見学しました。今回の訓練では、新型コロナウイルス対策が加わり、これまでの訓練よりも複雑になりましたね。参加者は全員マスク姿、フェイスシールドを着用している人もいました。避難者のバス輸送についても乗車定員を減らして対応していました。

以前の訓練でも思ったことですが、事故が発生したときには、健常者だけでなく、要援護者も避難することになります。今回の避難訓練では要援護者



の避難についてはどうなったのでしょうか。もうひとつ、感染症対策です。感染の疑いがある人を避難の早い段階で区別し、避難してもらわなければならない。スクリーニング会場では遅すぎます。この点はあとで確認したいと思います。

議会傍聴時乳幼児一時預かり事業助成金創設へ

10月22日、各派代表者会議が行われました。中心議題は議会としての来年度予算要求です。

新型コロナウイルス対策としての備品の設置、議場におけるモニター設置、議会専用階となっている市役所5階の女子トイレの改修、男女トイレにベビースhirt(おむつ交換代)とベビーカー(固定椅子)の設置費用、議会モニター会議費用、議会傍聴時乳幼児一時預かり事業助成金の創設などについて協議しました。

注目の一つは、議会傍聴時乳幼児一時預かり事業助成金の創設です。6月議会に子連れの女性(母親)が傍聴したのが予算要求の契機になりました。議会傍聴のために乳幼児一時預かり事業(託児サービス)を利用する人について、その利用料を助成するものです。助成対象者は市内在の人で、性別、年齢などに制限はありません。助成金額は3歳未満児の場合は1日あたり700円(1人につき)、3歳以上児にあっては500円です。全会派一



【マユミ】ニシキギ科の落葉低木です。漢字で「真弓」と書きます。別名は「ヤマニシキギ(山錦木)」とも。材質は強く、よくしなります。弓に使われる所以です。初夏、薄い緑色の花を咲かせますが、目立ちません。いまの時期、野山ではツルウメモドキとともに素敵な実を見せてくれます。写真は直江津の郷津海岸付近にて10月25日、撮影しました。

致して要求することになりました。

もうひとつは議場でのモニター設置です。会派「創風」と私も日本共産党議員団が要求したものです。これはよりわかりやすい議論をするための一環で、傍聴者を含め画像を見れるように要求しました。議会事務局でモニターの大きさ、設置個所など具体的な設置内容を詰めて提案していただきましたが、設置することでは合意をしているものの、具体的なところはもう少し詰めることになりました。

緊急提言も議論を

市議会人口減少対策特別委員会が10月26日ありました。この委員会には日本共産党議員団が入っていませんので、全員で傍聴しました。会議では、委員会の調査、審査のあり方をめぐって意見が交わされました。

協議の結果、これまで市議会の特別委員会が3回にわたって市長に提出した提言書などについて検証し、議論していくことです。今年には新型コロナウイルスの影響で出生数が激減する事態が起きています。こうした時こそ、自治体レベルで妊婦や若い夫婦を支援する政策が求められているのではないのでしょうか。特別委員会ではこうした緊急提言にも取り組んでほしいと思います。



10月24日、大島区田麦での「ブナフェス2020」。



10月27日に行われた「歌声列車」の様子

はしづめ法一の活動レポート

No.1983 2020.11.1

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六三〇回

歌声列車

右や左に田んぼや畑を見ながら電車はゆっくりに進む。外は青空が広がっていて、電車の中は歌声がいっぱい。楽しい、大きな歌声は電車の外にも広がっていく。

数年前、上越でも歌声列車が走るということを知り、私が抱いたイメージです。今年一〇月二七日、直江津―妙高高原間を走った六回目の歌声列車はまさに私が思い描いた通りでした。

この日は前日までの不安定な天気があり、青空が広がりました。文字通り最高の天気です。直江津駅から乗車することになった私は、どんなドラマが展開するのかを考えただけでもワクワクしました。

駅の四番ホームで待っていた歌声列車はディーゼル車一両。車両の脇には、なんと「わくわく歌声列車」と書いてあるじゃありませんか。一段と期待が膨らみました。

発車は午前九時五〇分。直江津駅から乗った一般参加者は三人でした。あとは歌声リーダーのヒロコさんとフルートとオルガンで伴奏して下さる女性など数人が乗り込みました。出発は少人数でも八人ほどの駅員さんたちが見送りしてくださいましたよ。男性の駅員さんは、「いい天気になりましたね。歌声で新型コロナウイルス、吹っ飛ばして下さい」と声をかけてくださいました。

春日山駅では二〇人ほどが合流しました。飲み物やお菓子などを持参している人が多く、これから修学旅行に出かけるような雰囲気がありましたね。参加者の多くは七〇代、八〇代です。

全員そろって、さあ、歌声列車のはじまり、はじまり……。『はい、最初は歌集にない歌です。』『もみじ』『いきますよ』とヒロコさんが声をかけると、全員が歌い始めました。「秋の夕日に照る山紅葉……」。

一曲目とあって発声は遠慮がち。でも二曲目以降は元氣あふれる歌声になりました。歌声列車の次の停車駅は上越妙高駅で

す。南高田駅を過ぎる頃、ヒロコさんが言いました。「次の駅で記者さんが取材に入ります。いまのうちにシワを伸ばし、ファンデーション塗っておいてください」。車内は笑い声でいっぱいになりました。

上越妙高駅に着くと、ホームには、直江津行き電車を待っている人たちが二〇人ほどいて、私たちが乗った車両に一齐に目を向けました。歌が聞こえたのでしようね、こちらの気分が伝わって、見ている人たちもみんな楽しそうな顔をしています。音楽の力ですごくいいですね。

上越妙高駅を出ると新井の市街地をのぞき田園地帯です。この日は秋晴れ、田んぼも山も空もどこを見ても絶景でした。

ヒロコさんの「初めての人もしようしがらずにリクエストしてね」というアナウンスに心えて誰かが『上を向いて歩こう』を注文しました。それから、『明日があるさ』『長崎の鐘』などの歌を体を揺さぶりながら次々と歌い続けました。スイッチバックの二本木駅で休憩。その後、「汽車の窓からハンカチ振れば……高原列車はランランランラン行くよ」と『高原列車は行く』を歌いながら妙高高原駅に着きました。

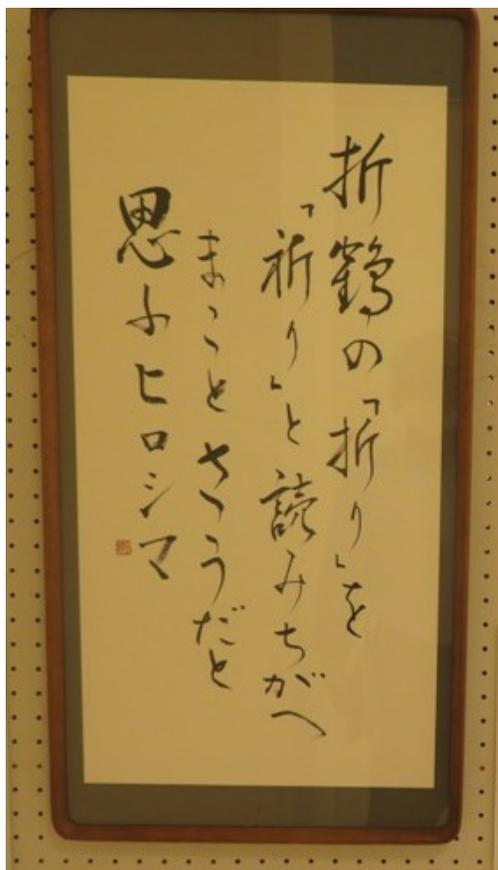
昼食は妙高温泉の香風館です。キノコをたくさん使った料理を堪能し、お風呂にも入りました。休みの時間帯では、春に咲き、三日間で散るといふハクモクレンの花に特別の思いを持って人々の話や京都で政治家の秘書をしていた女性による政治と地元気質の解説に引き込まれました。

午後十数曲歌い、歌声列車が直江津駅に着いたのは午後三時四〇分でした。朝からずっと一緒だった白髪の女性は、「楽しかったあ。きょうは思いつきり歌った。またね」と言いました。歌声列車に乗るとなぜかみんな仲良し、別れるときは力強く手を振りました。歌の力ですごくいいですね。

市内各地で文化展

10月16日、柿崎区浄福寺で行われた第3回手仕事手作り柿崎上越作品展に出かけてきました。折り鶴で紅葉した木を表現した作品、身近な竹を使って昆虫や蟹などを作ったもの、アケビのつるで作ったかごに花をそっと入れてある作品などいずれの作品も興味深く鑑賞してきました。元消防職員の小笠隆さん、元市役所職員の内山輝義さん、地元の加藤久美子さん、さざり織りの坂井亮円さん等の作品を見て「こういう能力がある人なのか」とびっくりでした。

18日は、老人クラブ連合会主催のシニア作品展の会場、市民プラザへのパッチワーク、盆栽、絵、書道作品などじつにたくさん出展されていました。元吉川中学校校長の太田空賢さんの短歌、新婦人のリーダーだったYさんの書などを見せてもらいました。従姉のパートナー、Sさんの作品もありました。みんな、素晴らしい。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月21日(水)	10月28日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.040	0.053
名立分遣所	0.050	0.053
高士分遣所	0.057	0.050